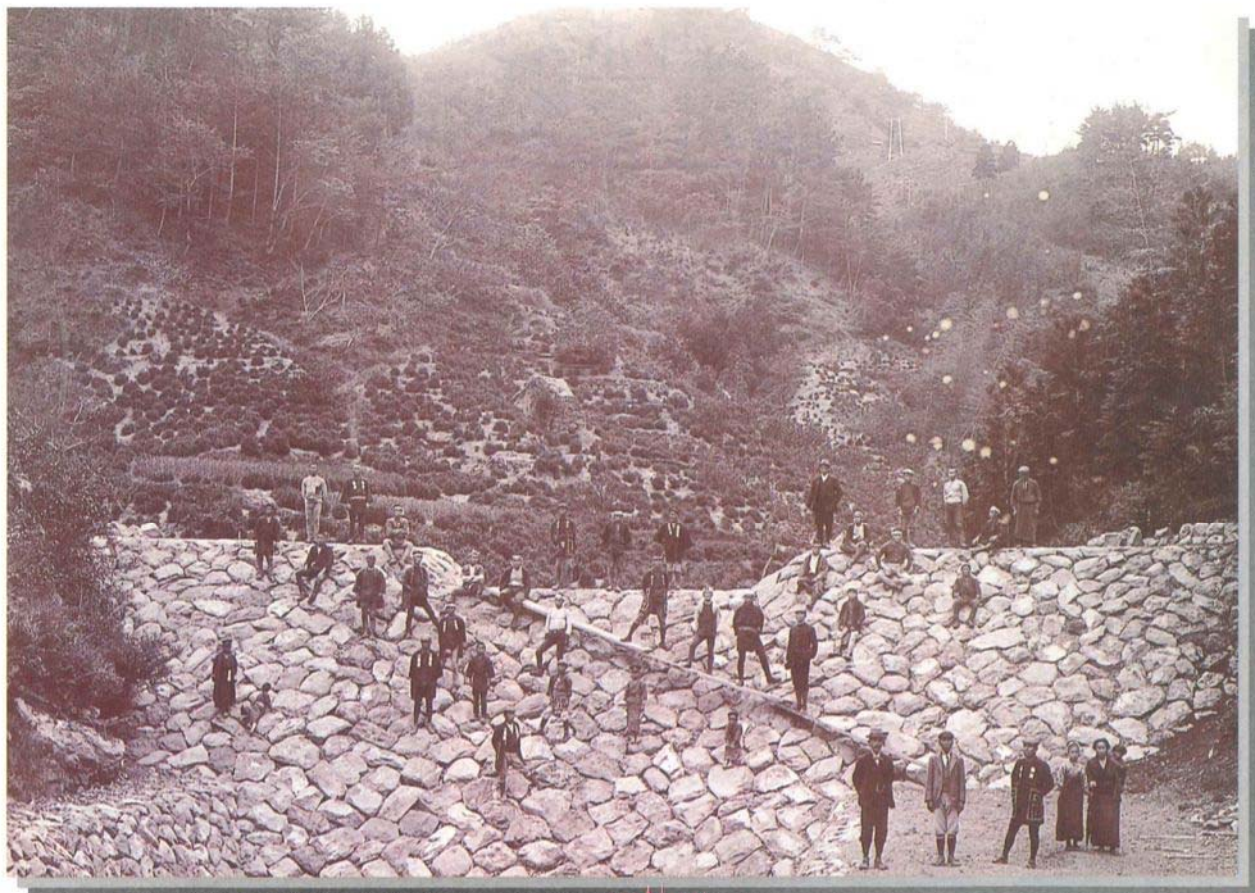


砂防だより

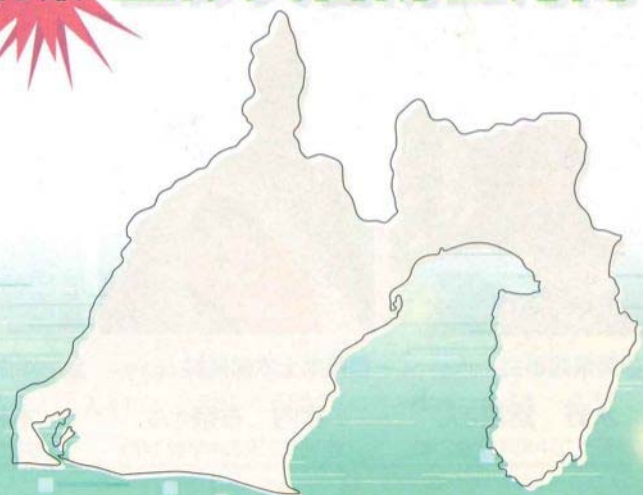
NO.
130
2000.7.15



明治44年撮影 兜堰堤 (岡部町 木和田川)

特集 土砂災害防止月間

- 特集 土砂災害防止月間 2
- 静岡県支部通常総会 8
- 全国治水砂防協会通常総会 9
- わがまちの砂防 10
- 砂防関係の主な行事 12



全国治水砂防協会静岡県支部

特集

土砂災害防止月間

毎年、梅雨期に全国各地で発生している土石流、地すべり、かけ崩れ等の土砂災害から人命・財産を守るため建設省と静岡県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害に対するご理解、ご協力を得るよう様々な行事を実施しています。

1 『土砂災害に関する絵画・ポスター・作文』の表彰式

土砂災害防止月間の行事の一環として、小・中学生の皆さんから土砂災害に関する絵画・ポスター・作文を募集したところ、多数の応募がありました。その中で、水野理哉さんをはじめ6人の方々の作品が優秀と認められ、各賞を受賞しました。

表彰式は、6月18日(日)に、静岡市青葉イベント広場で行なわれました。



賞	作品	学校名	学年	氏名
静岡県知事賞	ポスター	静岡市立中島中学校	2年	水野 理哉
静岡県土木部長賞	ポスター	静岡市立末広中学校	1年	宮内 香奈
	作文	富士市立元吉原中学校	2年	鈴木 千歳
全国治水砂防協会静岡県支部長賞	絵画	富士宮市立山宮小学校	6年	甲斐 春奈
	ポスター	袋井市立笠原小学校	5年	木根 和哉
	作文	富士宮市立富士見小学校	1年	齊藤 千佳



全国治水砂防協会静岡県支部長賞 (絵画)
甲斐 春奈さん (富士宮市立山宮小学校6年)



静岡県知事賞 (ポスター)
水野 理哉さん
(静岡市立中島中学校2年)



静岡県土木部長賞 (ポスター)
宮内 香奈さん
(静岡市立末広中学校1年)



全国治水砂防協会静岡県支部長賞 (ポスター)
木根 和哉さん
(袋井市立笠原小学校5年)

受賞者の声

水野 理哉さん

土砂災害というとあまり身近ではないので、絵でどのように表せばよいか難しかったのですが、この絵を見て土砂災害の恐ろしさがより伝わるようにしたいと思い描きました。いつどこで自分が被害に遭うかもわからないということを意識し、またこの被害をくい止めるために多くの人たちが努力しているということを忘れてはならないと思います。

作文 小学生の部 全国治水砂防協会静岡県支部長賞

「おおさわくずれのべんきょうをしたよ。」

富士宮市立富士見小学校1年 齊藤 千佳

7がつ28にちにだいえーのちかくにあるさぼうじむしよのあまつばめというへやをけんがくしました。おおさわくずれということばをはじめてきたよ。わたしのうちからみるふじさんはきれいだけど、あさぎりこうげんからみたふじさんは、いたそうだったよ。そのいたそうなところのなまえがおおさわくずれということをおしえてもらいました。おはなしはむずかしかったよ。

どせきりゅうのびでおもみました。みずが「どばあ」ってながれてきたよ。びっくりしたよ。いわとかきもながれてきたよ。みずってちからもちだなとおもいました。しみんぶうるのながれるぶうるをおもいだしたよ。

8がつ23にちにおおさわくずれにーにさんかしました。

た。おおさわせんじょうちは、がっこうのうんどうじょうよりすぐひろかったよ。いしやすながたくさんあったよ。このいしやすなは、ふじさんからおちてきたとおじさんがおしえてくれたよ。ほんとうは、もっともといっぱいあって、だんぶとらっくではこんでいるそうだよ。どうろのこうじにつかったりうみでつかったりするんだよ。これはくいずらりーのしつもんだったよ。こんなにいっばいいいしやすながおちたらふじさんがちいさくなっちゃうよ。ちょっとしんぱいしました。でもふじあざみをうえたり、どせきりゅうでおうちがこわれないように、おじさんたちがこうじをするんだよとおしえてくれました。だからちょっとほっとしたよ。ふじさんがくずれちゃうとへんなかたちになっちゃうからいやだよ。いつまでもきれいなふじさんでいてほしいです。

いえにかえったら、わたしがてれびにうつっていたとおばあちゃんがいっていたよ。じぶんでもみたかったなあ。

作文 中学生の部 静岡県土木部長賞

「私たちを守り支える砂防ダム」

富士市立元吉原中学校2年 鈴木 千歳

今年の6月30日、静岡県全域に大雨洪水警報が出され、私の学校も休校になりました。夜半から雨がひどくなり、風も強く、学校に出かける頃には、ひどいどしゃ降りや雷も鳴っていました。祖父が、「この雨では、また崖崩れなどが起きるかもしれないな。」とつぶやきました。実際、6月29日に、広島や長崎で1時間に200ミリ近い雨を観測し、土砂災害が起きて、広島では死者26人、行方不明5人と報道されていました。テレビの画面は流木や布団が押し流されているようすや行方不明者を捜す人々のようすを伝えていました。つくづく、自然の大きさと土砂災害の恐ろしさを感じました。

7月5日、父が仕事で広島に出張した折、土砂災害が起きた場所のことを聞いたそうです。土砂崩れがあった所の山は、木がだいぶ枯れていたということでした。つまり山の樹木による保水能力がなく、土砂が流出しやすい状況であったわけです。

富士市でも、山の方にどんどん住宅地が広がっており、いつ土砂災害が起きるかわかりません。事実、富士市の土砂災害危険箇所は17箇所、急傾斜地崩壊危険箇所が18箇所あるそうです。私の住んでいる元吉原地区は海に面しており、台風や津波による災害の不安もある上、急斜面もかかえているので、いっそう不安です。父が小学6年生の時、この元吉原地区に台風のため13メートルに及ぶ高潮が押し寄せ、防潮堤を乗り越え、松林のとぎれた所の住宅地へ流れ込み、急斜面のある崖を崩し、土砂が濁流となって家や人を押し流し、尊い人命を奪っていったということがあったそうです。その後、国の力で第一防潮堤、第二防潮堤が建設され、また多くの松が植林され、消波のためのテトラポットも置かれるようになったということでした。

日本は、海に囲まれた島国であり、台風もよく通ります。山（活火山）も多く、川は急流です。だから、多くの災害の歴史をもっているのだなあ、雲仙普賢岳の火砕流のことも思い出しました。またいつも身近に見ている富士山が活火山だった頃のことに興味をもち、図書室で富士山の資料を見てみました。

そこで私は、初めて「砂防ダム」のことを知ったのです。それまでの私は、ダムは水資源を確保し貯めるためのダ

ム、水力発電のためのダムしか知りませんでした。ところが、約千年前から始まった富士山の火砕流の崩壊による土石流から、私たちの生活を守るため、砂防ダムが作られ、活躍してくれることを知ったのです。このダムができるまでは富士山の火砕流を下った土石がわたしたちのまちの潤井川に流れ込み、田子の浦港を埋めてしまったということもあったのだということもわかり、びっくりしました。そのことを、国語の先生にお話すると、「富士山もそうだけれど、富士山の隣の山の愛鷹山も古い山で、崩壊が進んでいるのよ。その土石は須津川に流れ込むの。須津川には以前から砂防ダムがあったんだけど、それでは近い将来対応しきれなくなるからと、新しい大きな砂防ダムができたのよ。」と先生は言われました。須津川は、私たちの地域の沼川に合流しています。何も知らないで生活していたことを恥ずかしく思うとともに、砂防ダムを見てみたくなりました。

さっそく父に頼んで、夏休み、須津川の砂防ダムと富士宮の栗倉ダムなどを見に行きました。須津川の砂防ダムは落差工でした。ふだんは水だけが流れる構造となっており、土砂や大きな石が流れてくると、それを一定量だけ流すしくみになっているものでした。つまり土砂の勢いを段階的に止めるわけです。川筋を変えてある所もありました。見慣れた石だらけの川でしたが、自然の猛威に全力で立ちむかっている人間の労苦を、ダムの存在が教えてくれていました。栗倉ダムは流路工で、川底や川の両岸の侵食の防止と、水を無理なく下流に流すよう、コンクリート三面張りのダムでした。父が言いました。「土石流というのはね、時速何百キロという速さで流れてくるんだそうだよ。梅雨期や台風時の大雨だけでなく、雪崩から土石流が発生することもあるから、砂防ダムの存在は大きいね。」

土石流の発生源である源頭部対策の着手が困難なことから、下流の土砂災害防止が早期に期待できる扇状地対策から始めたという資料の説明を思い出しました。また日を改めて「渓岸工」「床固工」「導流堤」「砂防樹林帯補強工」といった、土石流から私たちの生活を守るための営みの結晶を、感謝の念をもってこの足で歩いて見ようとも思いました。その根によって土砂を止めるというフジザミも見てみたいと思いました。私たちの郷土も、日本一の富士山も、黙々と自然の脅威に挑んで下さっている人々によって支えられているのだと実感したからです。

2 急傾斜地パトロールの実施

急傾斜地崩壊危険区域として指定された区域は、県下に869箇所あります。県では6月1日から28日までの間に土木事務所職員、市町村職員、警察・消防署員など延べ760人余りを動員して、崩壊防止施設の異常や斜面の崩壊・亀裂の有無などの防災点検を実施しました。

この結果、県内数力所で施設の損傷や小規模の崩壊が確認されたため、早急に改善措置をとることとしました。

■急傾斜地パトロールで感じたこと

清水市河川課 主幹 藤下和幸

本市は、6月8日に県・地元自治会と協力して急傾斜地パトロールを実施しました。現地では民家の裏を通りながら点検していくと、住民の方から、以前は雨が降ると裏山のがけ崩れが心配で夜も眠れない時があったが、今は工事が完成して、やっと安心して眠れるようになったよ！と声をかけていただき、この事業の大切さを再認識しました。

工事が完成して人命を守るに至るまでには、非常に長い年月と多くの人達の努力が必要であり一朝一夕では実を結びません。保全の対象となっている人達も、工事が完成して雨が降るたびに土砂災害の危険におびえることもなくなり、安心して生活が送れることを当たり前と考えないで、陳情した頃の切迫した気持ちを忘れずにいてほしいと思います。



3 砂防フェスティバル2000しずおかの開催



6月18日(日)、静岡市青葉イベント広場で、土砂災害の恐ろしさと砂防事業の役割を皆さんに知っていただくために、6月の土砂災害防止月間の一環として「砂防フェスティバル2000しずおか」が建設省静岡河川工事事務所、沼津工事事務所、富士砂防工事事務所と静岡県の共催により開催されました。

会場では、パネルや模型などによる県内砂防事業の紹介、クイズラリー、土砂災害に関する絵画・ポスターの展示のほか、SBSラジオ「SBS THE BEST 30」の公開放送もあり、その中では砂防事業についてのインタビューや砂防に関するクイズ等が行われ、多数の市民に砂防事業に対する理解を深めていただきました。

土砂災害防止啓蒙状況の紹介



懸垂幕



マグネットシート

子供達に好評の 砂防フェスティバルの配布グッズ



■急傾斜地パトロール日記

島田土木事務所 企画検査課 漆畑諭佳

4月から新しい土木事務所にきて思ったのは「さすが茶どころ、緑がきれいだ」ということです。美味しい新茶だ、八十八夜だと思っているうちにもう二番茶の季節になり、あっという間に6月になってしまいました。

6月といえば梅雨時、急傾斜地パトロールの季節です。

私がパトロールに出た日は夏を思わせる強い日差しが続いている最中でした。今年も犬に吠えられながら、「お宅の裏庭発見」といった感じに進んでいったわけですが、やはりまだ抵抗があります。それだけ人家に密接なわけですし、危険箇所の発見は重要なことだと思いますが、住んでいる方達が自分の身は自分で守るという意識も必要だと思いました。擁壁にべったりと建てかけてある占用物や水路を荷物置き場に使っている所を見かけましたが、スペースがあるからちょっと置いたという軽い気持ちで

大きな惨事につながる可能性があるということを認識してもらおうことが大切だと思います。

工事が終わってしまうと、このような人家裏の構造物はなかなか点検が出来ません。土砂災害防止月間のように皆にアピールして、皆で気を付けていくことが必要だと思います。

かわいいワンちゃんや飼い主のために、工事も管理も啓発もしっかりやっていきたいです。

皆さんパトロールお疲れさまでした。



4 土砂災害防止推進の集い全国大会



平成12年度土砂災害防止推進の集い全国大会が6月1日に、全国の行政機関の防災担当者、砂防ボランティア、砂防工事従事者など約1400人が参加して、宇都宮市の栃木県総合文化センターで開催されました。西暦2000年の節目にあたる今年度の集いは、緑と土砂災害をテーマにして、土砂災害を防ぎ、より豊かな生活を支える21世紀の緑の役割、育て方について考えることを目的に行われました。

大会式典では、土砂災害防止に顕著な活動のあった功労者が建設大臣に表彰されました。災害発生時の人命救助や土砂災害に対する正しい知識の普及と防災意識の高揚に励む各団体の日頃の活動が高い評価を受けました。また、「いのちを守る緑・いのちを

育む緑」と題して行われたシンポジウムでは、土砂災害を防ぐ緑の役割、豊かな生活環境を創造する砂防事業の取り組みやその重要性などについて活発な討論が行われました。このなかで、豊かで安全な生活環境を後世に伝えるために、私たちひとりひとりが自然の力を正しく理解して緑と共存し良好な関係を続けていくことの重要性が確認されました。

この日には、「砂防ボランティア全国のつどい」「砂防関係工事現場代理人の会総会」も開催され、静岡県砂防ボランティア協会からも2名が参加して土砂災害を防ぐ様々な取り組みについての活動報告、情報交換が行われました。

5 口坂本地区区土砂災害避難訓練の実施



避難所での住民との検討会

6月7日、静岡市の口坂本地区区において、土石流の発生を想定した避難訓練が行われました。

口坂本地区区の坂本川では、平成10年7月末の豪雨により土石流が発生しましたが、土石流センサーが作動し、地元住民9名が無事避難しました。この土石流を契機に、住民の土砂災害に対する関心は非常に高くなり、避難訓練を毎年実施しております。

当日は、土石流センサーを作動させ、本番さながらに住民は静岡市設置の避難所へ避難、その後、静岡土木事務所や静岡市防災課等関係機関を交え、検討会も開催され、地元住民と活発な意見交換が行われ、大変有意義な訓練となりました。

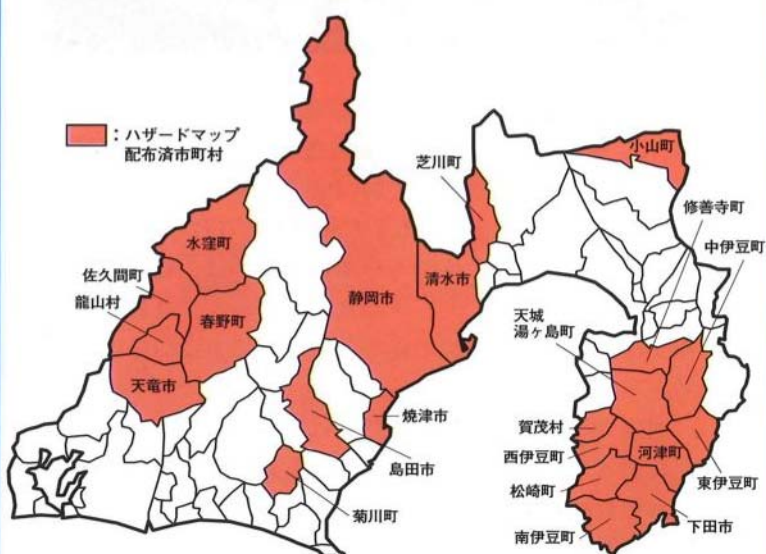
土砂災害危険区域図(ハザードマップ)の配布



地域住民に土石流、急傾斜地等の土砂災害危険箇所や避難地を周知するために、平成4年度から市町村と協力して、土砂災害危険区域図(ハザードマップ)を作成し、各戸へ配布しています。現在、危険箇所が存在する69市町村のうち22市町村(建設省、市による配布を含む)で配布が完了しております。

※今年度は土砂災害防止月間にあわせ、菊川町と龍山村で各戸に配布しました。

ハザードマップ配布済市町村



土砂災害防止法

「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）」が平成12年4月27日成立し、平成13年4月1日より施行されます。

『土砂災害防止法』とは

土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとするものです。

なぜ新しい法律が必要となったのか

平成2～11年までの10ヶ年で土砂災害の平均発生件数は、平成9年から続く異常気象の影響等も相まって1,023件に達しています。平成11年は1,501件、全国47都道府県のすべてで土砂災害が発生しています。

また、新たな宅地開発等に伴い、危険箇所は年々増加しています。そのすべての危険箇所を対策工事によって安全にしていくには膨大な時間と費用が必要となります。

だからこそ、人命を守るためには土砂災害防止工事のハード対策と併せて、土砂災害の危険性のある区域を明らかにし、その中で警戒避難体制の整備や危険な箇所への新規住宅等の立地抑制等のソフト対策を充実させていくことが大切なのです。



土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

基礎調査を実施して土砂災害のおそれのある区域を県知事が指定します。

区域の指定

土砂災害警戒区域 土砂災害のおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域



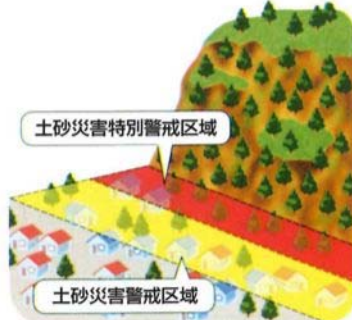
基礎調査の実施

都道府県が、渓流や斜面及びその下流など土砂災害により被害を受けるおそれのある区域の地形、地質、土地利用状況等について調査します。

■土石流



■急傾斜地の崩壊



■地すべり

静岡県支部通常総会の開催

全国治水砂防協会静岡県支部の平成12年度（第55回）通常総会が、5月24日に、静岡市で開催されました。

総会は、副支部長の豊田舜次袋井市長の挨拶にはじまり、近藤浩一建設省河川局砂防部傾斜地保全課長、大久保駿全国治水砂防協会理事長、柴順三郎静岡県副知事、遠藤榮静岡県議会議長の御祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成11年度事業報告・収支決算報告、平成12年度事業計画案・収支予算案等がそれぞれ満場一致で承認・可決されました。



近藤課長による講演

総会終了後、近藤課長から「土砂災害防止法について」と題した講演をいただきました。また、花岡正明建設省富士砂防工事事務所長から富士山の噴火の歴史や特徴と火山砂防事業について記載された「富士山火山防災ハンドブック」についての説明等がありました。



全国治水砂防協会静岡県支部役員名簿

役職名	公職名	氏名
支部長	前静岡県知事	斉藤 滋与史
顧問	静岡県土木部長	岡野 眞久
副支部長	袋井市長	豊田 舜次
〃	富士宮市長	渡辺 紀
会計監査役	春野町長	森下 茂
〃	河津町長	櫻井 泰次
委員	静岡市長	小嶋 善吉
〃	三島市長	小池 政臣

役職名	公職名	氏名
委員	伊東市長	鈴木 藤一郎
〃	島田市長	岩村 越司
〃	焼津市長	長谷川 孝之
〃	小山町長	長田 央
〃	相良町長	松下 嘉男
〃	引佐町長	長山 芳正
常任幹事	河川砂防総室 砂防統括監	武田 晴夫

全国治水砂防協会通常総会の開催



社団法人全国治水砂防協会の平成12年度（第63回）通常総会が、5月17日に、東京都千代田区の砂防会館で開催されました。

当日は、岸田文雄建設政務次官をはじめ多くの国

會議員が来賓として出席されました。当支部からは、副支部長の豊田舜次袋井市長をはじめ25名の会員にご出席をいただきました。

議事では、平成11年度事業報告・収支決算報告、平成12年度事業計画・収支予算が原案通り承認されました。続いて、役員追加選出が行われ、小林英昭砂防協会技術顧問が理事に選出されました。

また、総会終了後、森俊勇建設省河川局砂防部長、竹村昌幸建設省河川局水政課長より平成13年4月1日から施行される「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）」についての説明が行われました。

砂防学会通常総会 研究発表会の開催

平成12年度砂防学会通常総会及び研究発表会が、5月24日から26日にかけて、鹿児島市で開催されました。

通常総会では、「明治維新と薩摩」と題し、島津藩、薩摩隼人、辺境をキーワードに鹿児島の文化特性などについての特別講演がありました。

また、研究発表会では、「粘土成分を含む表層崩壊の発生機構について」「ラフ集合論によるがけ崩れ降雨要因の抽出に関する研究」など、最新の研究成果が発表されました。

最終日は、鹿児島市から霧島方面に向かい、触田



サボウランドパーク始良

川災害関連緊急砂防事業「サボウランドパーク始良」の整備状況を見学しました。

日本地すべり学会総会 中部支部総会の開催

日本地すべり学会及び日本地すべり学会中部支部の総会が、5月19日に、長野県で開催されました。

日本地すべり学会総会では平成11年度事業報告及び決算、12年度事業計画書及び予算の承認がなされ、新会長に中村浩之東京農工大学教授が就任されました。

引き続き、「地すべり土の残留強度と斜面安定度評価法に関する研究」と題し、宜保清一琉球大学農学部教授の特別講演が行われました。

シンポジウムでは「大規模構造線周辺地域における地すべり」と題して、6名の先生方から、中央構造線周辺で取り組んでおられる研究成果についての発表があり、活発な議論がなされました。

また、同日行われた中部支部総会では、平成11年度事業報告及び決算、12年度事業計画書及び予算の承認がなされ、新支部長に川上浩信州大学名誉教授が



就任されました。

出席者からは21世紀を迎え新たな転機を迎えた学会へ多くの期待を寄せる声が聞かれた総会でした。

なお、中部支部の行事として、11月に、静岡市口坂本地区において、地すべり解析手法等についての現地討論会が開催される予定です。

がまちの砂防

伊東市

伊東市 管理建築課長 山本 彰



鳥川火山砂防（伊東市宇佐美）

伊東市は伊豆半島の東海岸に位置し、豊かな温泉、変化に富んだ海岸線や緑あふれる高原を有し、「伊東国際観光温泉文化都市」として着実に歩んでおります。

しかしながら、その反面では急峻な地形を有していることから土石流等が危惧される溪流も多く、昭和33年の狩野川台風では多くの被害を受けました。

以後、この災害を教訓に土石流等の危険箇所においては砂防ダム等が整備され、平成12年度も二級河川鳥川流域等の3溪流で砂防ダムの建設が進められております。また平成元年に、市内の中心部を流れる二級河川伊東大

川の上流に多目的ダムが建設されてからは、下流域の洪水の危険もなくなり、ダム湖は「松川湖」として新たな観光の拠点としても生かされております。

最近の公共事業におきましては、従来の安全性に加え環境や景観が重視されております。伊東市においても、環境保全や美しい景観を守りながら自然とうまく共生していき、市民の日常生活だけではなく、観光客が安心して伊東市へ来遊できるようなまちづくりを目指しています。

最後に、今年は夏を中心とした従来のイベントに加え、「伊豆新世紀創造祭」なども開催されておりますので、是非、伊豆の伊東にお越しください。



松川湖



市の鳥「インヒヨドリ」オスのみお腹が赤くなっているのが特徴です

小山町

小山町 建設課長 勝俣 利夫

東京から90km、静岡県東駿地域に位置し、富士山の広く、ゆるやかな裾野にひらけ、箱根外輪の山ふところに抱かれて緑がいっぱいで自然豊か、それがわたくしたちの町「おやま」です。駿河小山駅から南へ6km、富士山頂からその裾野までの雄大な景色が目前に展望できる足柄峠があり、新羅三郎の笛吹塚、聖天堂、足柄城跡があります。そして、尾根筋を南へ4km、「足柄山の金太郎」伝説で知られる金時山があります。

このように自然に恵まれた当町は、起伏の激しい地形で河川は急勾配のため、災害を受けやすく、過去に台風、集中豪雨等により土砂災害が発生し、人命や財産に大きな被害を受けました。



幕下急傾斜地（小山町小山）



金太郎夏祭「おやまDEどんぶらこ」

昭和57年には台風10号により、駿河小山駅前通りは、滝沢川と後沢川から濁流、土砂が流れ込み、ほとんどが床上浸水と、壊滅的な打撃を受けてしまいました。このため当町では、昭和59年、滝沢川下流対策協議会を結成し、下流部ルートの本格的な見直しをすすめることになり、昭和61年4月から新しいルートの工事が実施され、平成10年3月完成に至っております。

今後も、住民が安全に安心して暮らせるために、また、豊かで活力のあるまちづくりをすすめるため、地域住民とともに土砂災害の防止に努めて参りますので、関係各位のなご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



静岡市

静岡市 河川課長 佐藤 豊

静岡市の砂防事業は、明治34年に砂防指定を受けて以来、来年で100年を迎えます。静岡市制施行110年ですから、その歴史の古さがわかります。ちなみに静岡市では本年、市制110周年記念事業として、家康公が生きた時代を再現するイベント、静岡「葵」博を開催しておりますので、皆様ぜひお越しください。

さて、来年からは「土砂災害防止法」が施行され、市町村が警戒避難体制の整備を図ることとなります。本市での実際の避難行動を例にあげますと、市北西部にある口坂本温泉地区上部には、大規模な地すべりや



郷島奥平急傾斜地（静岡市 郷島）

崩壊があり、県において長年にわたり対策工事を施工していただいております。

平成10年には土石流センサーが設置され、土石流を感知すると直ちに市の同報無線を通じて各家庭に避難を知らせる体制が整いました。その年の7月末の豪雨では土石流が発生しましたが、住民が自主的に避難し、警戒避難体制の重要性を再認識させられました。

静岡市内には700箇所余（県内の13.6%）の土砂災害危険箇所があり、着々と工事を実施していただいておりますが、今後は早期避難による被害の防止・軽減等、市町村の役割も一層大きくなりますので、市民が安心して生活できるよう努めてまいりたいと考えております。



静岡 葵博
SHIZUOKA AOI EXPOSITION

静岡「葵」博

引佐町

引佐町 建設課長 大谷 義房



引佐町は、中小の起伏する山地が多く、生け花用花木を傾斜面を活用して生産し、全国有数の産地となっています。このような環境から住民の方々がごく自然に緑や花に親しんできました。町営施設「いなさガーデンセンター」で育てられた十万本の花が国・県道等の沿道を彩ります。



県の天然記念物
淡川つつじ

当町の砂防指定地は7溪流あり、古くは昭和24年に通常砂防事業として、玉石コンクリート重力式の堰堤工、高さ8m、幅28mの大規模な工事が施工されました。

戦後まもなくでセメント等の資材がなく、施工も全て人力との話で、現在の機械を使用した技術と比較すると、先人の方々の苦勞が偲ばれます。

このような地道な事業の積み重ねで、数多くの災害を最小限に防ぎ止めてきました。

砂防事業は、道路改良等と異なり住民の方々の見えない場所で実施されることが多く、大変地味な事業ですが、町民の生命財産を守る有効な施策であり、今後とも砂防事業の推進を図ることとしておりますので、関係機関の方々のご支援をお願いいたします。



都田川砂防環境整備事業（引佐町淡川）

平成12年度
砂防関係の
主な行事 8月

静岡県支部 砂防事業促進要望 (建設省・本県選出国會議員)

県民の日 口坂本地区砂防ダム見学会

[8月18日 於 静岡市口坂本地区]

// 木和田川堰堤めぐり

[8月21日 於 志太郡岡部町木和田川周辺]

市町村長等砂防事業県外視察

[8月23~25日 於 北海道]

●土砂災害防止に関する絵画・ポスター・
作文の募集

- (1) 対象 小・中学生
(2) 応募期間 平成12年6月1日から
平成12年9月30日まで
(3) 応募先 静岡県土木部河川砂防総室砂防室
☎054-221-3042

●土砂災害防止写真コンテスト(第13回)

- (1) 応募期間 平成13年3月31日まで
(2) 応募先 (社)全国治水砂防協会
☎03-3261-8386

みなさまの応募をお待ちしております!

富士砂防工事務所からの

お知らせ

第5回富士山への手紙・絵コンクールの募集

富士山から学んだこと、元気づけられたこと、美しい富士山をいつまでも残していくために…、富士山と共に生きている私たちの富士山に対するそれぞれの思いを手紙に、絵に描いて送ってください。

1. 対象 (1)手紙部門: 小学生以上
(2)絵部門: どなたでも応募できます
2. 応募期間 平成12年7月1日(土)から9月16日(土)(当日消印有効)
3. 作品規格 (1)手紙部門: 一人1点(未発表のもの) / 官製はがき(400字以内)
(2)絵部門: 一人1点(未発表のもの)
用紙は四つ切(54.0×38.0cm)、キャンパスの場合はF10号(53.0×45.5cm)以下
※画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚すおそれのある画材はご遠慮ください。
4. 応募先 富士宮市教育委員会 学校教育課 富士山への手紙・絵コンクール事務局
〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地 ☎0544-22-1185

表紙写真: 木和田川

(兜堰堤 明治44年度施工 志太郡岡部町)

県では平成2年度から岡部町と共同で周辺の環境を配慮した公園整備と砂防環境整備を実施しております。木和田川の周辺は、平安時代の在原業平の歌碑や薦の細道、旧東海道、明治・大正・昭和・平成の時代に造られた4本のトンネル等の文化や歴史が残されています。

また、写真のような砂防堰堤(兜堰堤)8基が当時のままの姿で今なお地域の安全を図っています。ここでは「砂防学習ゾーンモデル事業」により遊歩道や四阿、案内看板等が整備されており、皆様のご来場をお待ちしています。

(写真提供: 岡部町)

編・集・後・記

今月号では「土砂災害防止月間」の特集を組みました。「急傾斜地パトロール」や「砂防フェスティバル2000しずおか」に参加しましたが、土砂災害に関心を持っている地域住民の多さと関係者の土砂災害防止対策への取組に対する熱意を再認識しました。

9月15日には20世紀最後のオリンピックがシドニーで開幕します。日本選手の活躍を期待したいものです。次号の「砂防だより」の発行は、そのオリンピックの閉幕後を予定しております。これからも会員の皆様のご意見やご投稿をいただき、内容の充実を図っていきたく思っておりますので、砂防だよりをご愛読いただきますようお願いいたします。

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております!
皆さんの御協力お願い申し上げます。
詳しくは下記宛にお問い合わせ下さい。



第130号 発行日:平成12年7月15日
編集・発行:全国治水砂防協会静岡県支部
〒420-8601 静岡市追手町9番6号
静岡県土木部河川砂防総室砂防室内
TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564
E-mail: sabo@hq.pref.shizuoka.jp



古紙配合率80%再生紙を使用しています